

稲作
ポイント

令和5年産種子の
取り扱いにあたっての注意点



秋田地区営農センター 主任 関口 直樹

令和5年産種子の管理の注意点

令和5年産の水稻種子の発芽率は、例年並みの90%以上であることが確認されていますが、昨年は過去に例をみない高温で登熟したことから、休眠が深くなっていると思われます。

秋田県産米改良協会による発芽試験では、発芽勢がやや低くなっており、発芽が揃いにくいことが予想されますので、令和5年産種子の利用にあたっては次の点に注意しながら行ってください。

●水稲種子の発芽試験データ(あきたこまち)

(秋田県産米改良協会による試験)

年産	播種からの経過日数			
	5日	7日	9日	14日
令和5年産種子 ※	85.4%	92.5%	95.2%	96.9%
令和4年産種子	76.2%	96.2%	97.3%	97.5%
令和元～3年産種子(平均)	92.4%	97.1%	98.2%	98.4%

※14日目の発芽率は平年並みだが、5日目の発芽率(発芽勢)がやや低い。

●種子予措

1.浸種

①種子消毒剤の効果を高めるため、水温10～15℃を確保できる4月上旬頃を目安に浸種を始めましょう。水温が10℃以下となった場合は休眠が深まる可能性があるため、常に水温の計測を怠らず、適水温を確保するように気を付けてください。

②浸種期間は浸種水温10℃で6～8日、14℃で6日程度とします。種子を透かして胚が白く見えるようになったときが浸種終了の目安です。

2.催芽

①発芽を均一にするため、30～32℃で行いましょう。その際、内部まで温度を均一にするためにあらかじめ36～40℃の温度で湯通しします。

②催芽中は水分を切らさないようにし、芽の長さはハト胸程度(1mm)としてください。種子袋の表面だけでなく、内部の発芽もしっかり確認しましょう。

③発芽ムラが見られる場合は、発芽の遅い種子が芽切れするまで十分に行ってください。

種子・苗箱消毒

昨年、「苗立枯病」や「もみ枯細菌病」が育苗期後半に発生していたため、種子消毒剤で防除しましょう。また、苗箱消毒剤で苗箱を消毒しましょう。

種子消毒	ヘルシード乳剤	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病	200倍 24時間種子浸種
	スターナ水和剤	苗立枯病・もみ枯細菌苗	200倍 24時間種子浸種
	テクリードCフロアブル	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病・ 苗立枯病・もみ枯細菌病	200倍 24時間種子浸種
苗箱消毒	イチバン乳剤	多くの菌に効果(特にリゾープス属菌)	500～1,000倍 瞬時浸漬または散布

生産資材・農産物の盗難などに注意!

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう